

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人高知大学
医学部附属病院長 杉浦 哲

高知大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	41 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	178人	123人	289.6人	看護補助者	53人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	6人	10人	15.3人	理学療法士	9人	臨床検査技師	44人
薬剤師	28人	0人	28.0人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	6人	3人	9.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	448人	72人	513.8人	臨床工学技士	15人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	3人	3.0人	栄養士	1人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	0人	4人	4.0人	歯科技工士	2人	事務職員	101人
管理栄養士	5人	3人	8.0人	診療放射線技師	28人	その他の職員	46人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	461.7人	10.7人	472.4人
1日当たり平均外来患者数	995.7人	74.4人	1070.1人
1日当たり平均調剤数	856.6 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インプラント義歯	0人
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	9人
抗悪性腫瘍剤感受性検査(GD-DST法)	12人
腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。
(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
蛍光膀胱鏡を用いた5-アミノレブリン酸溶解液の経口投与又は経尿道投与による膀胱がんの光力学的診断 筋層非浸潤性膀胱がん	21人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	51人	・膿疱性乾癬	11人
・多発性硬化症	21人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・重症筋無力症	33人	・原発性胆汁性肝硬変	20人
・全身性エリテマトーデス	128人	・重症急性膵炎	7人
・スモン	4人	・特発性大腿骨頭壊死症	32人
・再生不良性貧血	21人	・混合性結合組織病	19人
・サルコイドーシス	84人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	12人	・特発性間質性肺炎	15人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	161人	・網膜色素変性症	13人
・特発性血小板減少性紫斑病	47人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	19人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	59人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	7人	・亜急性硬化性全脳炎	3人
・ピュルガー病	8人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	18人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	32人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	28人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	16人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	67人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	10人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1人
・後縦靭帯骨化症	61人	・肥大型心筋症	9人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	11人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェグナー肉芽腫症	2人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	24人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	10人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	31人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳がんのセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	・
・インプラント義歯	・
・抗悪性腫瘍剤感受性検査(CD-DST法)	・
・腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月8回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 19例 / 部検率 9.50%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
通常食で自然発症する非アルコール性脂肪肝炎モデルマウスにおける発症の分子機構	西原 利治	消化器内科学	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
異常Kupffer細胞におけるNASH発症に関連する因子の同定	小野 正文	内科(消化器)	2,730,000	独立行政法人 日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎の病態進展にレニン・アンジオテンシン系が及ぼす影響	廣瀬 享	消化器内科学	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
オートファジー調節による尿管管分化と尿中再生マーカーを用いた急性腎臓病の再生医学	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	7,150,000	独立行政法人 日本学術振興会
腎尿管細胞の脱分化・再生の過程におけるDNA修復、細胞周期、細胞死制御の解明	平野 世紀	内科(内分泌代謝・腎臓)	2,080,000	独立行政法人 日本学術振興会
脾B細胞TBP-2の耐糖能障害における役割の解明	藤本 新平	内分泌代謝・腎臓内科学	2,210,000	独立行政法人 日本学術振興会
腎疾患におけるオートファジー・リソソーム系の病態への関与	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	780,000	独立行政法人 日本学術振興会
再生医療技術を応用した腎尿管の再生・修復による急性腎不全の新規治療薬の開発	井上 紘輔	内科(内分泌代謝・腎臓)	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
糖代謝制御機構を標的とする抗糖治療戦略の構築	田口 崇文	内分泌代謝・腎臓内科学	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
再生医学による急性腎臓病での尿管再生への新規治療法の開発	緒方 巧二	内科(内分泌代謝・腎臓)	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
腎疾患におけるオートファジーとサーチユインの病態への関与と新規治療薬の開発	島村 芳子	内科(内分泌代謝・腎臓)	1,040,000	独立行政法人 日本学術振興会
宿毛市国保ヘルスアップ事業の評価	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	130,000	宿毛市
新規尿中バイオマーカーを用いた慢性肝臓病患者での急性肝障害の早期診断法の開発	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	830,000	独立行政法人科学技術 振興機構
セレクチンリガンドを有するKL-6/MUC1の発現機序の解明と臨床応用	横山 彰仁	血液・呼吸器内科学	6,240,000	独立行政法人 日本学術振興会
肥満による喘息悪化機序の解明-C/D8陽性T細胞との関係	大西 広志	内科(血液・呼吸器)	1,820,000	独立行政法人 日本学術振興会
トロンボモジュリンの血管内皮保護薬としての臨床応用に向けた分子基盤の解明	池添 隆之	内科(血液・呼吸器)	2,080,000	独立行政法人 日本学術振興会
造血幹細胞移植後のヒトヘルペスウイルス6感染に対する適切な診断方法の確立	谷口 照裕子	血液・呼吸器内科学	1,690,000	独立行政法人 日本学術振興会
呼吸不全に関する調査研究	横山 彰仁	血液・呼吸器内科学	800,000	京都大学
トロンボモジュリン分子がもつ新規な血管内皮細胞保護作用機序の解明	池添 隆之	内科(血液・呼吸器)	1,700,000	独立行政法人科学技術 振興機構
心筋症の病因と病態進展機序の究明に関する縦断的研究	土居 義典	老年病・循環器・神経内科学	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
肥大型心筋症の病因遺伝子解析と病態修飾因子の解明	久保 亨	老年病・循環器・神経内科学	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
慢性活動性EBウイルス感染症に対する病態解明に基づく治療戦略に関する研究	脇口 宏	小児思春期医学	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
慢性活動性EBウイルス感染症において特異的に発現変化する細胞遺伝子の経路的解析	藤枝 幹也	小児思春期医学	1,950,000	独立行政法人 日本学術振興会
フラーン溶菌酵素を利用するセラチア菌感染症に対する新制御法の開発	松下 憲司	周産母子センター(小児科)	2,340,000	独立行政法人 日本学術振興会
GLP-1による中枢性交感神経系賦活における孤束核ノルアドレナリン神経系の役割	山本 雅樹	小児科	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
慢性活動性EBウイルス感染症の診断法と治療法確立に関する研究	脇口 宏	小児思春期医学	1,500,000	国立成育医療センター 研究所
高校生1万人のメンタルヘルスサポートシステムの構築について	下寺 信次	神経精神科学	650,000	独立行政法人 日本学術振興会
うつ病の最適治療ストラテジーを確立するための大規模多施設共同研究	下寺 信次	神経精神科学	2,000,000	京都大学
精神病初回発症例の疫学研究および早期支援・早期治療法の開発と効果確認に関する臨床研究	下寺 信次	神経精神科学	2,800,000	東京都立松沢病院
かかりつけ医のための認知症の鑑別診断と疾患別治療に関する研究	上村 直人	神経精神科学	1,600,000	熊本大学
精神疾患患者に対する早期介入とその普及啓発に関する研究	下寺 信次	神経精神科学	1,050,000	東邦大学
【23-4】 (研究課題名)高齢者の自立支援に資する総合的研究:認知症高齢者を含む高齢者の移動・外出支援 (分担する研究題目)認知症高齢者の自動車運転と家族に対する心理教育のあり方に関する検討 バリア破綻による皮膚炎発症の機序:表皮セラミド欠損マウスを用いた解析	上村 直人	神経精神科	600,000	補 長寿医療研究センター
乾燥の発症におけるTh17の役割	中島 喜美子	皮膚科	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
モデルマウスを用いた乾燥の病態解明及び治療薬の開発	樽谷 勝仁	皮膚科学	1,430,000	独立行政法人 日本学術振興会
メタボリックシンドロームとしての乾燥-レプチンの関与について	中島 英貴	皮膚科学	910,000	独立行政法人 日本学術振興会
関節症性乾燥モデルマウス作製とその解析	山本 真有子	皮膚科学	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
紫外線発症におけるT細胞の関与について	喜多川 千恵	皮膚科	1,950,000	独立行政法人 日本学術振興会
白斑・白皮症の本邦における診断基準及び治療指針の確立	佐野 栄紀	皮膚科学	700,000	大阪大学
紫外線誘導性皮膚癌モデルマウスの創製におけるプラットフォームとしての応用	横川 真紀	皮膚科学	1,085,000	独立行政法人科学技術 振興機構
新しい酵素標的・増感放射線療法KORTUCの腫瘍幹細胞に対する効果の検証	小川 恭弘	放射線医学	260,000	独立行政法人 日本学術振興会
線維化関連分子を標的とした放射線誘発肺傷害の予防と治療	西岡 明人	放射線医学	1,040,000	独立行政法人 日本学術振興会
過酸化水素水による低酸素細胞の放射線抵抗性の克服	刈谷 真爾	放射線医学	650,000	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
MRIを用いた乳癌術前化学療法早期治療効果予測	久保田 敬	放射線科	3,900,000	独立行政法人 日本学術振興会
次世代型人工臓器を用いた糖尿病患者に対する新しい周術期血糖管理法の確立	花崎 和弘	外科学(外科1)	1,950,000	独立行政法人 日本学術振興会
酸化ビリルビンを指標とした全身性炎症反応症候群での標的臓器内ラジカル生成の解明	岡田 浩晋	外科(二)	1,300,000	独立行政法人 日本学術振興会
酸化ビリルビンを指標とした開心術後心筋酸化ストレスの評価	山本 正樹	外科(二)	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
脳由来神経栄養因子に対するDNAデコイによる疼痛制御の基礎的研究	横山 正尚	麻酔科学	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
新しい循環管理アルゴリズムの開発	山下 幸一	麻酔科学	2,990,000	独立行政法人 日本学術振興会
ATP感受性Kチャネルを標的とした神経因性疼痛治療への試み	河野 崇	麻酔科蘇生科	780,000	独立行政法人 日本学術振興会
周術期の炭水化物摂取による消化管粘膜保護作用とインスリン抵抗性改善作用の検討	矢田部 智昭	麻酔科蘇生科	1,040,000	独立行政法人 日本学術振興会
酸感受性イオンチャネルをターゲットにした関節痛の新規治療法の開発	池内 昌彦	整形外科	3,120,000	独立行政法人 日本学術振興会
末梢神経電気刺激法による静脈血栓症の予防に関する臨床研究	泉 仁	整形外科	650,000	独立行政法人 日本学術振興会
腰痛の診断、治療に関する研究「腰部椎管狭窄症の診断・治療法の開発」	谷 俊一	整形外科	800,000	千葉大学
脊柱軟骨骨化症に関する調査研究	谷 俊一	整形外科	500,000	慶應義塾大学
骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発	武政 龍一	整形外科	700,000	東京医科歯科大学
脊髄障害性疼痛症候群の実態の把握と病態の解明に関する研究	谷 俊一	整形外科	200,000	愛知医科大学
虚弱高齢者のための児童・生徒参加型高齢者健診と運動器リハモデルに関する研究	谷 俊一	整形外科	400,000	黒潮町
アレルギー性結膜炎発症におけるマクロファージの関与	福島 教樹	眼科学	650,000	独立行政法人 日本学術振興会
眼炎症疾患発症におけるmiRNAの関与	西内 貴史	眼科	2,210,000	独立行政法人 日本学術振興会
アレルギー性結膜炎における眼表面上皮バリアーの関与	福田 憲	眼科学	1,170,000	独立行政法人 日本学術振興会
自然免疫の制御による角膜感染に伴う炎症の抑制	角 謙	眼科学	1,040,000	独立行政法人 日本学術振興会
嚥下障害の病態評価に基づいた集学的嚥下障害治療法の確立	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	3,510,000	独立行政法人 日本学術振興会
乳幼児の喉頭軟弱症に対する喉頭直達鏡下レーザー手術治療法の確立	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	1,000,000	公益財団法人 内視鏡 医学研究振興財団
グリオーマ腫瘍幹細胞の浸潤能に関与するMUC18遺伝子を標的とした新規治療の開発	田村 雅一	脳神経外科	2,470,000	独立行政法人 日本学術振興会
悪性グリオーマに対する血管内皮前駆細胞を利用した自家細胞療法の開発	中林 博道	脳神経外科	2,340,000	独立行政法人 日本学術振興会
神経幹細胞の非対称分裂異常による発ガン機構の解析	清水 憲司	脳神経外科	1,820,000	独立行政法人 日本学術振興会
Olig2陽性細胞から選択的に誘導したニューロンを用いた神経再生医療の基礎的検討	政平 訓貴	脳神経外科	3,120,000	独立行政法人 日本学術振興会
ラミンα1, 腎臓癌の新規胎児性抗原	辛島 尚	泌尿器科学	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
腎癌VHL遺伝子異常解析によるHIF蛋白の発現予測と分子標的薬の効果予測法の開発	執印 太郎	泌尿器科学	2,340,000	独立行政法人 日本学術振興会
新規発癌関連遺伝子の探索を目指した光力学診断偽陽性尿路上皮の網羅的遺伝子解析	井上 啓史	泌尿器科学	4,680,000	独立行政法人 日本学術振興会
前立腺癌におけるISG15の分子メカニズムの解析と発癌に関わる原因ウイルスの探索	佐竹 宏文	泌尿器科学	1,820,000	独立行政法人 日本学術振興会
前立腺癌で高発現する新規バイオマーカーXの機能解析とその臨床応用	田村 賢司	泌尿器科	2,210,000	独立行政法人 日本学術振興会
フォン・ヒッペルリンドウ病の病態調査と診断治療系確立の研究	執印 太郎	泌尿器科学	8,000,000	国立保健医療科学院
がん医療経済的解析を踏まえた患者負担の在り方に関する研究	執印 太郎	泌尿器科学	1,000,000	東北大学
5-アミノレブリン酸(5-ALA)による蛍光膀胱鏡を用いた膀胱癌の光学的診断に関する多施設共同試験	執印 太郎	泌尿器科学	1,975,000	社団法人日本医師会
5-アミノレブリン酸(5-ALA)による蛍光膀胱鏡を用いた膀胱癌の光学的診断に関する多施設共同試験	執印 太郎	泌尿器科学	42,750,000	社団法人日本医師会
治験の実施に関する研究【5-アミノレブリン酸】	執印 太郎	泌尿器科学	1,000,000	社団法人日本医師会
尿路上皮腫瘍の光動的スクリーニングシステムの確立	井上 啓史	泌尿器科学	2,080,000	独立行政法人科学技術 振興機構
尿路ストーマケアマネージャー育成活動	井上 啓史	泌尿器科学	1,200,000	公益信託高知新聞・高 知放送
口腔癌の局所腫瘍免疫に及ぼす低酸素環境ならびにHIF-1αの影響	山本 哲也	歯科口腔外科学	8,060,000	独立行政法人 日本学術振興会
口腔扁平苔癬に対する分子標的療法の有用性に関する基礎的・臨床的検討	森下 慶子	歯科口腔外科	2,210,000	独立行政法人 日本学術振興会
口腔癌発症における酸化ストレスの関与	山田 朋弘	歯科口腔外科学	2,340,000	独立行政法人 日本学術振興会
口腔扁平上皮癌の形成に関わるMicroRNAとその標的遺伝子の解析	山本 哲也	歯科口腔外科学	650,000	独立行政法人 日本学術振興会
扁平上皮癌におけるMFG-E8の役割-癌細胞からの産生とEatmeシグナル	北村 直也	歯科口腔外科	1,560,000	独立行政法人 日本学術振興会
口腔癌治療における磁性ナノ粒子(Fe3O4)の応用	李 康広	歯科口腔外科	1,430,000	独立行政法人 日本学術振興会
EphrinB2を標的とした脈管新生抑制による口腔癌の制御	笹部 衣里	歯科口腔外科	1,820,000	独立行政法人 日本学術振興会
水熱ホットプレス法を応用した生体近似的顎骨再建への応用	山田 朋弘	歯科口腔外科学	299,000	独立行政法人科学技術 振興機構
患者負担低減を達成する『高強度』かつ『フッ素徐放性』を持つ歯科充填用コンポジットレジンの開発	山本 哲也	歯科口腔外科学	413,700	高知県産業振興セン ター
患者負担低減を達成する『高強度』かつ『フッ素徐放性』を持つ歯科充填用コンポジットレジンの開発	山本 哲也	歯科口腔外科学	448,350	高知県産業振興セン ター
急性冠症候群発症におけるヘリコバクター・ピロリ感染症の関与とその機序	杉浦 哲朗	病態情報診断学	650,000	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
腹筋電気刺激によるフィードバック血圧制御装置の開発	山崎 文晴	検査部	2,600,000	補助 独立行政法人 日本学術振興会
たこつぼ心筋症の成因に関する研究—糖代謝・炎症を機軸とした中枢神経系の関与	公文 義雄	病態情報診断学	2,860,000	補助 独立行政法人 日本学術振興会
呼吸器悪性腫瘍における新規癌ウイルス感染実態の網羅的解析	上岡 樹生	病態情報診断学	1,950,000	補助 独立行政法人 日本学術振興会
肝虚血再灌流における急激な血糖上昇の機序の解明とその予防策の検討	福永 賀予	集中治療部	2,080,000	補助 独立行政法人 日本学術振興会
固定式全方向歩行訓練器の開発とその有用性調査	石田 健司	リハビリテーション部	3,640,000	補助 独立行政法人 日本学術振興会
運動器疾患の評価と要介護予防のための指標開発および効果的介入方法に関する調査研究	石田 健司	リハビリテーション部	1,500,000	補助 東京大学
平行棒付回転トイレ介助機器作成	石田 健司	リハビリテーション部	450,000	補助 公益信託高知新聞・高知放送
日本人における直腸肛門機能検査および超音波検査の正常範囲	味村 俊樹	骨盤機能センター	780,000	補助 独立行政法人 日本学術振興会

計 99件

(注)

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肝胆膵 62 : 729-736, 2011.	薬物治療法 : UDCAとベザフィブレートを中心	岩崎信二, 高橋昌也, 西原利治	第一内科
Journal of Nephrology 24(3) : 218-224, 2011.	Possible involvement of intracellular angiotensin II receptor in high-glucose-induced damage in renal proximal tubular cells.	Takao T, Horino T, Kagawa T, Matsumoto R, Shimamura Y, Ogata K, Inoue K, Taniguchi Y, Taguchi T, Morita T, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Mod Rheumatol 21 : 106-108, 2011.	Rapidly progressive destructive arthritis in psoriatic arthritis sine psoriasis: do bone resorption marker levels predict outcome of bone destruction in psoriatic arthritis?	Taniguchi Y, Kumon Y, Shimamura Y, Kobayashi S, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Mod Rheumatol 21 : 228-231, 2011.	Weber-Christian disease associated with granulomatous mastitis a variant type of Weber-Christian disease?	Taniguchi Y, Kagawa T, Ishibashi A, Horino T, Kumon Y, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Mod Rheumatol 21 : 232-234, 2011.	Atypical generalized morphea-like scleroderma presenting deep sclerosis on the fingers.	Taniguchi Y, Okazaki M, Kagawa T, Nakajima K, Nakajima H, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Clin Nucl Med 36 : 121-123, 2011.	F-18 FDG PET/CT provides the earliest findings of enthesitis in reactive arthritis.	Taniguchi Y, Kumon Y, Nakayama S, Arii K, Ohnishi T, Ogawa Y, Kobayashi S, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Endocrine Journal 58 : 279-286, 2011.	Corticotropin-releasing hormone (CRH) transgenic mice display hyperphagia with increased Agouti-related protein mRNA in the hypothalamic arcuate nucleus.	Nakayama S, Nishiyama M, Iwasaki Y, Shinahara M, Okada Y, Tsuda M, Okazaki M, Tsugita M, Taguchi T, Makino S, Stenzel-Poore MP, Hashimoto K, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Internal Medicine 50 : 2687-2688, 2011.	Giant Pelvic Calcification.	Taguchi T, Maeda N, Fukuya T, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
J Gastrointest Liver Dis 20 : 330-331, 2011.	Hepatic arteriovenous malformation with hyperammonemia in Rendu-Osler-Weber syndrome.	Taguchi T, Iwamura S, Mizobuchi M, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)

Internal Medicine 50 : 1861-1862, 2011.	Callus Formation in a Patient with Cushing' s Syndrome.	Taguchi T, Ishibashi A, Shuin T, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Internal Medicine 50 : 1781, 2011	Giant Adrenal Calcification.	Taguchi T, Inoue K, Shuin T, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Journal of Infection 62 : 180-181, 2011.	Ramsay-Hunt syndrome.	Taguchi T, Ueda S, Kudo T, Nakajima H, Nishioka R, Sano S.	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Clinical Nuclear Medicine 36 : 1044-1045, 2011.	Secondary Retroperitoneal Fibrosis Due to Polyarteritis Nodosa Evaluated by F-18 FDG PET/CT.	Taniguchi Y, Kumon Y, Kagawa T, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Clinical Nuclear Medicine Volume 36 : 121-123, 2011.	F18 FDG PET/CT Provides the Earliest Findings of Enthesitis in Reactive Arthritis.	Taniguchi T, Kumon Y, Nakayama S, Arii K, Ohnisi T, Ogawa Y, Kobayashi S, Terada Y	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Clin Endocrinol, 2011.	Plasma Dehydroepiandrosterone Sulfate and Insulin-like Growth Factor I Levels in Obstructive Sleep Apnea Syndrome.	Makino S, Fujiwara M, Handa H, Fujie T, Aoki Y, Hashimoto K, Terada Y, Sugimoto T.	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
日本脊椎関節炎学会誌vol. 3(1) : 43-49, 2011.	若年発症および高齢発症脊椎関節炎の臨床的特徴の検討.	谷口義典, 次田 誠, 香川 亨, 寺田典生, 公文義雄, 有井 薫, 小林茂人	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
日本脊椎関節炎学会誌vol. 3(1) : 51-56, 2011.	脊椎関節炎の疾患活動性モニタリングにおけるFDG-PET/CT有用性の検討.	有井 薫, 吉本幸生, 谷口義典, 次田 誠, 寺田典生, 公文義雄, 小林茂人	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
日本脊椎関節炎学会誌vol. 3(1) : 113-119, 2011.	膀胱癌に対するBCG療法により発症した反応性関節炎の一例.	小松奏子, 谷口義典, 石橋綾子, 香川 亨, 寺田典生, 公文義雄, 佐竹宏文, 執印太郎, 吉永泰彦	内科(内分泌代謝・腎臓) (第二内科)
Leuk Res. 2011 Jul;35(7):932-9.	Simultaneous inhibition of DNA methyltransferase and histone deacetylase induces p53-independent apoptosis via down-regulation of Mcl-1 in acute myelogenous leukemia cells.	Nishioka C*, Ikezoe T, Yang J, Udaka K*, Yokoyama A.	第三内科
Blood Cancer Journal (2011) 1:e48(online journal)	Imatinib causes epigenetic alterations of PTEN gene via upregulation of DNA methyltransferases and polycomb group proteins	Nishioka C*, Ikezoe T, Yang J, Udaka K* and Yokoyama A.	第三内科

Int J Cancer. 2011 Nov 15;129(10):2512-21.	Expression of p-JAK2 predicts clinical outcome and is a potential molecular target of acute myelogenous leukemia.	Ikezoe T, Kojima S, Furihata M*, Yang J, Nishioka C, Takeuchi A, Isaka M, Koeffler HP, Yokoyama A.	第三内科
J Asthma. 2011 Nov;48(9):907-13.	Association of airway inflammation with asthma control level evaluated by the asthma control test.	Shiota N, Yokoyama A, Haruta Y, Hattori N, Kohno N.	第三内科
Leuk Res. 2011 Oct;35(10):1345-9.	Clinical significance of aberrant DNA methylation in childhood acute lymphoblastic leukemia.	Takeuchi S, Matsushita M, Zimmermann M, Ikezoe T, Komatsu N, Seriu T, Schrappe M, Bartram CR, Koeffler HP.	第三内科
Am J Epidemiol. 2011 Mar 15;173(6):659-66.	Effect of mustard gas exposure on incidence of lung cancer: a longitudinal study.	Doi M, Hattori N, Yokoyama A, Onari Y, Kanehara M, Masuda K, Tonda T, Ohtaki M, Kohno N.	第三内科
Respir Res. 2011 Jul 26;12:97.	Change in serum KL-6 level from baseline is useful for predicting life-threatening EGFR-TKIs induced interstitial lung disease.	Kawase S, Hattori N, Ishikawa N, Horimasu Y, Fujitaka K, Furonaka O, Isobe T, Miyoshi S, Hamada H, Yamane T, Yokoyama A, Kohno N.	第三内科
Allergol Int. 2011 Sep;60(3):299-304.	Chronic Hepatitis C Virus Infection is Associated with More Severe Asthma.	Nakashima T, Yokoyama A, Ohnishi H, Yamasaki M, Shiode M, Haruta Y, Hattori N, Hozawa S, Yamakido H.	第三内科
Respiration. 2011;82(1):10-8.	Levels of Surfactant Proteins A and D and KL-6 Are Elevated in the Induced Sputum of Chronic Obstructive Pulmonary Disease Patients: A Sequential Sputum Analysis.	Ishikawa N, Hattori N, Tanaka S, Horimasu Y, Haruta Y, Yokoyama A, Kohno N, Kinnula VL.	第三内科
Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2011Dec;301(6):L908-16	Intra-airway Administration of Small Interfering RNA Targeting Plasminogen Activator Inhibitor-1 Attenuates Allergic Asthma in Mice.	Miyamoto S, Hattori N, Senoo T, Onari Y, Iwamoto H, Kanehara M, Ishikawa N, Fujitaka K, Haruta Y, Murai H, Yokoyama A, Kohno N.	第三内科
今日の治療指針2011年版, 386-387, 2011	拡張型心筋症	土居義典	老年病科
ガイドラインサポートブック パーキンソン病, 181-195, 2011	患者ケアの問題点	大崎康史	老年病科

デジタル心音図との対比で学ぶ心臓の聴診, 1-181, 2011		山崎直仁, 土居義典	老年病科
J Cardiol, 58, 261-265, 2011	Plasma metalloproteinase levels and left ventricular remodeling in hypertrophic cardiomyopathy in patients with identical mutation.	Kitaoka H, Kubo T, Okawa M, Takenaka N, Baba Y, Yamasaki N, Matsumura Y, Furuno T, Doi YL	老年病科
Heart and Vessels, 26, 267-273, 2011	Effects of various doses of aspirin on platelet activity and endothelial function.	Furuno T, Yamasaki F, Yokoyama T, Sato K, Sato T, Doi Y, Sugiura T	老年病科
Circ J, 75, 919-926, 2011	Combined measurement of cardiac troponin I and brain natriuretic peptide are useful for predicting adverse outcome in hypertrophic cardiomyopathy.	Kubo T, Kitaoka H, Okawa M, Yamanaka S, Hirota T, Baba Y, Hayato K, Yamasaki N, Matsumura Y, Yasuda N, Sugiura T, Doi YL	老年病科
Cir J, 75, 2654-2659, 2011	Genetic screening and double mutation in Japanese patients with hypertrophic cardiomyopathy.	Kubo T, Kitaoka H, Okawa M, Baba Y, Hirota T, Hayato K, Yamasaki N, Matsumura Y, Otsuka H, Arimura T, Kimura A, Doi YL	老年病科
Am J Cardiol, 107, 1065-1070, 2011	Effect of left ventricular reverse remodeling on long-term prognosis after therapy with angiotensin-converting enzyme inhibitors, angiotensin II receptor blockers and β blockers in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Hoshikawa E, Matsumura Y, Kubo T, Okawa M, Yamasaki N, Kitaoka H, Furuno T, Takata J, Doi YL	老年病科
J Echocardiogr, 9, 109-111, 2011	Turbulent left-right shunt flow through the interatrial septum suggesting high left atrial pressure in patients with heart failure with preserved ejection fraction.	Hayato K, Matsumura Y, Kawada Y, Baba Y, Tanioka K, Okawa M, Kubo T, Yamasaki N, Kitaoka H, Nishinaga M, Doi Y	老年病科
心臓, 43, 64-68, 2011	外科的血行再建を施行した慢性腸間膜動脈閉塞症の1例.	斧田尚樹, 野並有紗, 宮川和也, 近藤史明, 矢部敏和, 土居義典, 池淵正彦, 入江博之	老年病科
CLINICAL NEUROSCIENCE, 29, 514-515, 2011	パーキンソン病患者のQOLと予後	大崎康史	老年病科
M. P. (Medical Practice), 28, 183-189, 2011	大動脈瘤	大川真理, 土居義典	老年病科

Pacing Clin Electrophysiol, 34(2), 177-184, 2011	Clinical characteristics of focal atrial tachycardias arising from the atrial appendages during childhood.	Sakaguchi H, Miyazaki A, Yamamoto M, Kurosaki K, Ohuchi H, Satomi K, Suyama K, Yamada O	小児科
Hum Exp Toxicol, 30(7), 603-605, 2011	Effect of pravastatin on cisplatin-induced nephrotoxicity in rats.	Fujieda M, Morita T, Naruse K, Hayashi Y, Ishihara M, Yokoyama T, Toma T, Ohta K, Wakiguchi H	小児科
Modern Physician, 31(1), 43-46, 2011	【急性腎障害(AKI)の診療】各論-機序 尿細管再生	石原正行, 島村芳子, 緒方巧二, 井上紘輔, 寺田典生	小児科
腎と透析, 70(2), 262-266, 2011	【AKI 臨床とバイオマーカーの基礎】尿細管の障害と再生	寺田典生, 上田訓子, 石原正行, 島村芳子, 緒方巧二	小児科
小児科学レクチャー, 1(1), 165-169, 2011	【小児思春期医学教室の酸塩基平衡Q&A-異常へのアプローチ】治療 酸血症に対するメイロンの投与方法と投与基準	石原正行	小児科
Annual Review腎臓, 2012, 127-132, 2012	Clinical nephrology 尿細管・間質障害 尿細管障害と再生の分子機序	石原正行, 藤枝幹也, 寺田典生	小児科
小児内科, 44(2), 190-193, 2012	【クローズアップ腎・泌尿器】概念・研究の進歩 発症メカニズム ロタウイルス腸炎罹患後の急性腎不全	藤枝幹也, 芦田 明, 森田 拓, 石原正行, 太田和秀	小児科
藤枝幹也, 森田 拓, 芦田 明	【腎臓症候群(第2版)下-その他の腎臓疾患を含めて-】各種病態にみられる腎障害 感染症 ロタウイルス胃腸炎と尿酸結石症	藤枝幹也, 森田 拓, 芦田 明	小児科
TRIALS	Strategic use of new generation antidepressants for depression: SUN(^_^)D study protocol.	Furukawa TA, Akechi T, Shimodera S, Yamada M, Miki K, Watanabe N, Inagaki M, Yanemoto N	精神科
Open journal of Psychiatry	HIV encephalopathy presenting as schizophrenia-like delusions during highly active antiretroviral therapy(HAART) case report.	Fuji M, Iseki M, Takeuchi S, Kakeda K, Shimodera S, Seo H, Inoue S	精神科
Open Journal of Psychiatry	Dopamine receptor D3R and D4R mRNA levels in peripheral lymphocytes in patients with schizophrenia correlate with severity of illness.	Kawano M, Sawada K, Tsuru E, Nishihara M, Kato K, Honer WG, Shimodera S	精神科

Br J Psychiatry	Family psychoeducation for major depression: randomized controlled trial.	Shimazu K, Shimodera S, Mino Y, Nishida A, Kamimura N, Sawada K, Fujita H, Furukawa TA, Inoue S	精神科
Br J Psychiatry	Author' s reply to Partha Sarathi Biswas.	Shimodera S, Shimazu K, Nishida A, Kamimura N, Fujita H, Inoue S, Furukawa TA	精神科
J Clin Psychiatry	Brief Behavioral Therapy for Refractory Insomnia in Residual Depression: An Assessor-Blind, Randomized Controlled Trial.	Watanabe N, Furukawa TA, Shimodera S, Morokuma I, Katsuki F, Fujita H, Sasaki M, Kawamura C, Perlis ML	精神科
TRIALS	Strategic use of new generation antidepressants for depression, SUN(^_^)D; study design rationale.	Yonemoto N, Akechi T, Shimodera S, Yamada M, Miki K, Watanabe N, Inagaki M, Furukawa TA	精神科
日本社会精神医学会雑誌	ますます重要性を増す社会精神医学の役割：学会30周年に寄せて	井上新平	精神科
精神科	高齢者・認知症と性的問題行動	上村直人, 福島章恵, 弘田りさ, 今城由里子, 下寺信次	精神科
認知症ケア事例ジャーナル	認知症の人の自動車運転の実態	上村直人, 池田学	精神科
認知療法研究	統合失調症の家族心理教育～現場でいかに実践するか～, 統合失調症に対する心理社会的治療および研究, 第10回日本認知療法学会シンポジウム	下寺信次	精神科
精神科治療学	思春期の精神障害の疫学と精神疾患の早期介入, 現代の思春期例をどう診るかII	下寺信次	精神科
Medical Practice	うつ病の心理教育ポイントとコツ	下寺信次, 藤田博一, 河村葵	精神科
臨床精神医学	【精神科・わたしの診療手順】(第3章) 統合失調症/統合失調症型障害/妄想性障害 統合失調症(安定期)	井上新平	精神科
精神科	小児・思春期精神医学発達障害の早期徴候について	永野志歩	精神科

精神科	初老期アルツハイマー病患者への診断告知を行った1例	上村直人, 井上新平	精神科
Geriatric Medicine	【高齢者の運転を巡って】認知症の自動車運転をどう考えるか 背景疾患別の運転行動の特徴と運転中断について	上村直人, 福島章恵, 今城由里子, 諸隈陽子, 下寺信次	精神科
J Invest Dermatol, 131: 108-117, 2011	Stat3 as a therapeutic target for the treatment of psoriasis. A clinical feasibility study with STA-21, a Stat3 Inhibitor.	Miyoshi K, Takaishi M, Nakajima K, Ikeda M, Kanda T, Tarutani M, Iiyama T, Asao N, Digiovanni J, Sano S.	皮膚科学
Visual Dermatol, 10: 824-825, 2011	爪乾癬に対するターゲット型エキシマライト療法.	志賀建夫, 横川真紀, 佐野栄紀	皮膚科学
Visual Dermatol, 10: 838-839, 2011	ターゲット型エキシマライト療法による円形脱毛症の治療	高橋綾, 横川真紀, 佐野栄紀	皮膚科学
J Dermatol Sci, 64: 144-147, 2011	18FDG PET/CT is a powerful tool for detecting subclinical arthritis in patients with psoriatic arthritis and/or psoriasis vulgaris.	Takata T, Taniguchi Y, Ohnishi T, Kohsaki S, Nogami M, Nakajima H, Kumon Y, Terada Y, Ogawa Y, Tarutani M, Sano S.	皮膚科学
Pediatr Dermatol, 28: 397-400, 2011	Neonatal lupus erythematosus in identical twins, showing transient bullous lesions.	Nakajima K, Wakiguchi H, Sano S, Kodama H.	皮膚科学
J Dermatol, 38: 819-821, 2011	Manifestation of psoriatic lesions in a cooling pillow user.	Miyoshi K, Takamura S, Nakajima H, Sano S.	皮膚科学
Visual Dermatol, 10: 855-857, 2011	ターゲット型エキシマライト療法により治癒した皮膚サルコイド	岸本英樹, 横川真紀, 佐野栄紀	皮膚科学
皮膚臨床, 53: 1186-1189, 2011	Bowen様乳房外Paget病の1例.	青木奈津子, 三好研, 佐野栄紀, 松本茂	皮膚科学
臨皮, 65: 563-566, 2011	乳児線維性過誤腫の1例.	寺石美香, 青木奈津子, 北川伸子, 佐野栄紀	皮膚科学
皮膚臨床, 53: 200-203, 2011	神経症状が先行し蜂窩織炎様臨床像を呈したChurg-Strauss症候群.	志賀建夫, 畠山暢生	皮膚科学
臨皮, 65: 67-71, 2011	体表リンパ流分布に沿った広範囲に皮疹が分布した習慣性丹毒の1例.	志賀建夫, 岸本英樹, 青木奈津子, 樽谷勝仁, 佐野栄紀	皮膚科学
西日皮膚, 73: 140-143, 2011	Mechanic' Hand, 逆Gottron徴候を呈し, 急速進行性間質性肺炎により死の転帰をとった抗140kDa蛋白抗体陽性の皮膚筋炎の1例.	喜多川千恵, 中島英貴, 中島喜美子, 樽谷勝仁, 佐野栄紀, 塩田直樹	皮膚科学

臨皮, 65: 245-248, 2011	節外性NK/T細胞リンパ腫, 鼻型の治療後に発症した全身性強皮症.	喜多川千恵, 矢田部愛, 志賀建夫, 中島喜美子, 池田光徳, 佐野栄紀	皮膚科学
Skin Cancer, 26: 69-72, 2011	右頬部に局所再発したアポクリン腺癌の1例.	岸本英樹, 喜多川千恵, 寺石美香, 山本真有子, 松田和美, 中島英貴, 横川真紀, 樽谷勝仁, 佐野栄紀	皮膚科学
Skin Cancer, 25: 363-366, 2011	皮膚粘液癌 (mucinous carcinoma of the skin) の1例.	岸本英樹, 喜多川千恵, 寺石美香, 山本真有子, 佐野栄紀	皮膚科学
西日皮, 73: 61-68, 2011	痒みを伴うアレルギー性皮膚疾患患者の抗ヒスタミン薬に対する希望と満足度に関する研	三好研, 中島英貴, 佐野栄紀	皮膚科学
日小児皮会誌, 30: 125-128, 2011	母親の非特異ウイルス抗体が診断の手がかりになった新生児エリテマトーデス.	中島喜美子, 藤枝幹也, 脇口宏, 佐野栄紀	皮膚科学
第25回角化症研究会記録集, 32-36, 2011	表皮特異的Golgi pH regulator 欠損マウスのphenotype.	樽谷勝仁, 中島喜美子, 高石樹朗, 佐野栄紀, 前田裕輔, 木下タロウ	皮膚科学
加齢皮膚医学セミナー, 6: 9-12, 2011	日光角化症におけるイミキモドの抗腫瘍作用モデルマウスを用いた解析.	横川真紀, 志賀建夫, 高石樹朗, 樽谷勝仁, 佐野栄紀	皮膚科学
西日皮膚, 73: 461-462, 2011	Angioma serpiginosum.	喜多川千恵, 三好研, 佐野栄紀	皮膚科学
Arch Dermatol Res, 303: 451-455, 2011	Kinetics of circulating Th17 cytokines and adipokines in psoriasis patients.	Nakajima H, Nakajima K, Tarutani M, Morishige R, Sano S	皮膚科学
Int J Dermatol, 50: 237-238, 2011	Pre-treatment with misoprostol prevents food-dependent exercise-induced anaphylaxis (FDEIA).	Takahashi A, Nakajima K, Ikeda M, Sano S.	皮膚科学
J Dermatol Sci, 63: 64-66, 2011	Altered lipid profiles in the stratum corneum of Sjögren-Larsson Syndrome.	Nakajima K, Sano S, Uchida Y, Akiyama M, Morita Y, Shimizu H	皮膚科学
J Immunol, 186: 4481-4489, 2011	Distinct roles of IL-23 and IL-17 in the development of psoriasis-like lesions in a mouse model.	Nakajima K, Kanda T, Takaishi M, Shiga T, Miyoshi K, Nakajima H, Kamijima R, Tarutani M, Benson JM, Elloso MM, Gutshall LL, Naso MF, Iwakura Y, DiGiovanni J, Sano S	皮膚科学

PLoS One, 6 : e18266, 2011	Genome-wide expression profiling of five mouse models identifies similarities and differences with human psoriasis.	Swindell WR, Johnston A, Carbajal S, Han G, Wohn C, Lu J, Xing X, Nair RP, Voorhees JJ, Elder JT, Wang XJ, Sano S, Prens EP, Digiovanni J, Pittelkow MR, Ward NL, Gudjonsson JE	皮膚科学
Knee. 18: 453-455, 2011	Successful treatment of wound breakdown caused by pyoderma gangrenosum after total knee arthroplasty. Knee.	Nakajima H, Ikeuchi M, Izumi M, Kuriyama M, Nakajima H, Tani T.	皮膚科学
Int J Oncol 39: 553-560, 2011	Safety and effectiveness of a new enzyme-targeting radiosensitization treatment (KORTUC II) for intratumoral injection for low-LET radioresistant tumors	小川 恭弘ほか	放射線医学講座
Oncol Rep	Power Doppler and gray-scale sonography standardized by BI-RADS for the differentiation of benign postoperative lesion and local recurrence after breast-conserving therapy.	久保田敬	放射線科
Am J Surg (in press)	Impact of jejunal pouch interposition reconstruction after proximal gastrectomy for early gastric cancer on quality of life: short- and long-term consequences	Namikawa T, Oki T, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K	外科 (一)
Am Surg 77(5)May:e82-e84	Long-term disease-free postoperative survival after combined vascular resection for hilar cholangiocarcinoma	Maeda H, Okabayashi T, Machida T, Shimada K, Kajikawa S, Amano J, Hanazaki K	外科 (一)
Am Surg 77(11)Nov:1454-1459	Colorectal cancer surgery in patients older than 80 years of age: experience at one nonteaching hospital in Japan	Maeda H, Okabayashi T, Ichikawa K, Miyazaki J, Hanazaki K, Kobayashi M	外科 (一)

Amino Acids 40(4)Apr:1213-1220. Epub 2010 Sep 18	Oral supplementation with carbohydrate- and branched-chain amino acid-enriched nutrients improves postoperative quality of life in patients undergoing hepatic resection	Okabayashi T, Iyoki M, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K	外科 (一)
Ann Surg 254(4)Oct:671-672	What is the optimal blood glucose range to improve morbidity and mortality in surgical patients?	Hanazaki K, Munekage M, Okabayashi T	外科 (一)
Arch Surg 146(3)Mar:368-369	What should the targeted range of blood glucose levels be to reduce the incidence of surgical site infection following general surgery?	Hanazaki K, Okabayashi T	外科 (一)
Clin J Gastroenterol 4(6)Dec:381-386	Splenic hamartoma: a case report and clinicopathological analysis of Japanese cases	Okamoto K, Maeda H, Okabayashi T, Dabanaka K, Namikawa T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki	外科 (一)
Colorectal Dis. 2011 Feb 2. [Epub ahead of print]	Validation study of the Japanese version of the fecal incontinence quality of life scale	Ogata H, Mimura T, Hanazaki K	外科 (一)
Crit Care Med 39(3)Mar:575-578. Epub 2010 Dec 20	The evaluation of the ability of closed-loop glycemic control device to maintain the blood glucose concentration in intensive care unit patients	Yatabe T, Yamazaki R, Kitagawa H, Okabayashi T, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama M	外科 (一)
Drug Metab Dispos 39(10)Oct:1784-1788. Epub 2011 Jul 1	Pharmacokinetics of Daikenchuto, a Traditional Japanese Medicine (Kampo) after Single Oral Administration to Healthy Japanese Volunteers	Munekage M, Kitagawa H, Ichikawa K, Watanabe J, Aoki K, Kono T, Hanazaki K	外科 (一)
Endoscopy (in press)	Solitary gastric metastasis from a renal cell carcinoma, presenting 23 years after radical nephrectomy	Namikawa T, Iwabu J, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K	外科 (一)
Hiroshima J Med Sci 60(2)Jun:37-39	Control of dry weight and tube feeding improved the general condition of a hemodialysis patient: report of a case	Nakatani H, Shoji H, Shibata M, Yoshida M, Tadokoro Y, Ogura N, Inoue Y, Hanazaki K, Hamada S, Kawamura A	外科 (一)

Int J Cancer. 2011 Mar 28. [Epub ahead of print]	Long-term exposure of gastrointestinal stromal tumor cells to sunitinib induces epigenetic silencing of the PTEN gene	Yang J, Ikezoe T, Nishioka C, Takezaki Y, Hanazaki K, Taguchi T, Yokoyama A	外科 (一)
J Am Coll Surg 212(5)May:915-916	What is the best way to guarantee postoperative glycemic control?	Hanazaki K, Munekage M, Okabayashi T	外科 (一)
J Am Coll Surg 213(1)July:198-199	Determination of the optimal perioperative blood glucose level to reduce surgical site infection in diabetic patients	Hanazaki K, Kitagawa H, Okabayashi T	外科 (一)
J Artif Organs 14(3)Sep:232-237. Epub 2011 May 28	Continuous monitoring of glucose levels in the hepatic vein and systemic circulation during the Pringle maneuver in beagles	Yatabe T, Kitagawa H, Kawano T, Munekage M, Okabayashi T, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama M	外科 (一)
J Artif Organs. 2011 Sep 27. [Epub ahead of print]	Blood glucose control using an artificial pancreas reduces the workload of ICU nurses	Mibu K, Yatabe T, Hanazaki K	外科 (一)
J Clin Gastroenterol 45(9)Oct:e82-e86. Epub 2011 Mar 18	Clinical characteristics of the idiopathic perforation of the colon	Namikawa T, Ozaki S, Okabayashi T, Dabanaka K, Okamoto K, Mimura T, Kobayashi M, Hanazaki	外科 (一)
J Gastroenterol Hepatol 26(12)Dec:1811	Gastrointestinal: Asymptomatic spontaneous isolated dissection of superior mesenteric artery diagnosed incidentally	Namikawa T, Iwabu J, Tsujii S, Kitagawa H, Kobayashi M, Hanazaki K	外科 (一)
J Hosp Infect 78(1)May:67-68. Epub 2011 Mar 21	Subcutaneous continuous suction drainage for prevention of surgical site infection	Tochika N, Namikawa T, Kamiji I, Kitamura M, Okamoto K, Hanazaki K	外科 (一)
J Med Invest 58(3-4)Aug:252-254	Acute abdomen caused by both acute appendicitis and epididymitis	Nakatani H, Hamada S, Okanou T, Kawamura A, Inoue Y, Yamamoto S, Chikai T, Hiroi M, Hanazaki K	外科 (一)
J Med Invest 58(3-4)Aug:255-258	Fournier's gangrene in elderly patient: report of a case	Nakatani H, Hamada S, Okanou T, Kawamura A, Chikai T, Yamamoto S, Inoue Y, Hanazaki K	外科 (一)

Langenbecks Arch Surg 396(6)Aug:769-776. Epub 2011 Mar 30	Double tract reconstruction after distal gastrectomy for gastric cancer is effective in reducing reflux esophagitis and remnant gastritis with duodenal passage preservation	Namikawa T, Kitagawa H, Okabayashi T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K	外科 (一)
Med Mol Morphol 44(1)Mar:7-14. Epub 2011 Mar 23	Quantitative distribution of brush cells in the rat gastrointestinal tract: brush cell population coincides with NaHCO ₃ secretion	Akimori T, Hanazaki K, Okabayashi T, Okamoto K, Kobayashi M, Ogata T	外科 (一)
Oncology (in press)	Plasma diamine oxidase activity is a useful biomarker for evaluating gastrointestinal tract toxicities during chemotherapy with oral fluorouracil anti-cancer drugs in patients with gastric cancer	Namikawa T, Fukudome I, Kitagawa H, Okabayashi T, Kobayashi M, Hanazaki K	外科 (一)
Pancreatology 11(2)Aug:268-276. Epub 2011 Jul 5	Pancreatogenic diabetes after pancreatic resection	Maeda H, Hanazaki K	外科 (一)
Surg Today 41(10)Oct:1344-1351. Epub 2011 Sep 16	Progressive artificial endocrine pancreas: The era of novel perioperative blood glucose control for surgery	Tsukamoto Y, Okabayashi T, Hanazaki K	外科 (一)
Surg Today. 2011 Dec 14. [Epub ahead of print]	Adult ileoileal intussusception induced by an ileal lipoma diagnosed preoperatively: Report of a case and review of the literature	Namikawa T, Hokimoto N, Okabayashi T, Kumon M, Kobayashi M, Hanazaki K	外科 (一)
World J Gastroenterol 17(27)Jul:3263-3266 Epub 2011 Jul 21	Clinical experience of Pseudo-Meigs' Syndrome due to colon cancer	Maeda H, Okabayashi T, Hanazaki K, Kobayashi M	外科 (一)
World J Gastrointest Surg (in press)	Adult intussusception with cecal adenocarcinoma: successful treatment by laparoscopy assisted surgery following preoperative reduction	Namikawa T, Okamoto K, Okabayashi T, Kumon M, Kobayashi M, Hanazaki K	外科 (一)

World J Surg 35(12)Dec:2773-2778 Epub 2011 Oct 6	Effect of perioperative intensive insulin therapy for liver dysfunction after hepatic resection	Okabayashi T, Ichikawa K, Namikawa T, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K	外科 (一)
World J Surg	The effect of the neutrophil elastase inhibitor sivelestat on early injury after liver resection	Tsujii S, Okabayashi T, Shiga M, Takezaki Y, Sugimoto T, Kobayashi M, Hanazaki K	外科 (一)
最新インスリン療法、ヴィジュアル糖尿病臨床のすべて、荒木栄一編、中山書店、pp137-139	人工膵臓による周術期の血糖管理	宗景匡哉、花崎和弘	外科 (一)
消化器外科ナーシング、らくらくわかる新人ナースの術前術後ケアまるごとガイド(2)肝胆膵編、メディカ出版、16(5)5月:pp426-443	肝臓	市川賢吾、花崎和弘	外科 (一)
医療材料【外科製品・生体材料】の臨床ニーズ集 第1章医師の求める医療材料とは、技術情報協会、pp249-258	第31節人工繊維布 消化器外科の立場から	並川 努、花崎和弘	外科 (一)
病気の分子形態学 第二章 各論 I. 消化管の疾患、日本臨床分子形態学会編、学際企画、pp?-87	I-3 大腸腫瘍 一側方発育型腫瘍を中心に	古屋泰雄、小林道也	外科 (一)
病気の分子形態学 第二章 各論 I. 消化管の疾患、日本臨床分子形態学会編、学際企画、pp88-90	I-4 癌における Thymidine phosphorylase	並川 努、小林道也	外科 (一)
Diabetes Frontier 22(4)8月:337-340	人工膵臓(日機装の新しい機器「STG-55」)	北川博之、岡林雄大、花崎和弘	外科 (一)
LiSA 18(12)12月:1182-1184	血糖に影響する外科的手技:人工膵臓の closed loop system で周術期の厳密な血糖管理が可能に	北川博之、矢田部智昭、花崎和弘	外科 (一)
Nephrology Frontier 10(Suppl):51-55	シナカルセト塩酸塩の少量・透析直前間欠的投与について	福本和生、清家愛理、島津栄一、三宅 晋、酉家佐吉子、花崎和弘	外科 (一)
外科 73(12)11月:1273-1277	I. 外科総論 4. 腫瘍 随伴症候群	岡林雄大、市川賢吾、花崎和弘	外科 (一)
手術 65(4)4月:421-425	Hyper Eye Medical Systemを用いた乳癌センチネルリンパ節生検手技	杉本健樹、花崎和弘、佐藤隆幸	外科 (一)
人工臓器 40(1):46	人工膵臓を用いた外科周術期血糖制御法	宗景匡哉、北川博之、岡林雄大、能勢之彦、Charles Brunicardi、花崎和弘	外科 (一)
人工臓器 40(1):48	人工膵臓を用いた血糖管理法はICU看護師の労働負担を軽減できるのか	壬生季代、矢田部智昭、花崎和弘	外科 (一)
日本外科学会雑誌 112(2)3月:147-149	2度の出産・育児を経験した女性外科医の体験に基づく女性外科医の勤務継続について	志賀 舞、松浦喜美夫、花崎和弘	外科 (一)
日本大腸肛門病学会雑誌 64(10)10月:860-866	便失禁の評価と治療総論-診療ガイドライン作成に向けて-	味村俊樹、福留惟行、倉本 秋	外科 (一)
日本臨床外科学会雑誌 72(6)6月:1561-1564	単孔式腹腔鏡手術で摘出した腹腔内異物の1例	福留惟行、小林道也、駄場中研、倉本 秋、川村明廣、花崎和弘	外科 (一)

日本臨床外科学会雑誌 72(9)9 月:2410-2414	腹腔内に発生した Ewing 肉腫 / peripheral primitive neuroectodermal tumor の2例	福留惟行、駄場中研、 岡本 健、並川 努、 小林道也、花崎和弘	外科 (一)
日本臨床外科学会雑誌 72(10)10 月:2578-2582	術前 inflammatory fibroid polyp との鑑 別に苦慮した横行結腸 脂肪腫の1例	福留惟行、駄場中研、 岡本 健、岡林雄大、 小林道也、花崎和弘	外科 (一)
Angiology Frontier	目でみる血管障害 下 肢静脈瘤のレーザー治 療 原理および手技の 実際について(図説)	岡崎泰長、川田通広、 西森秀明、笹栗志朗	外科 (二)
胸部外科	標準的心臓血管外科手 術におけるスーチャー セットの導入	割石精一郎、西森秀明、 福富敬、山本正樹、笹 栗志朗	外科 (二)
Surgery Today	Current strategy of intra-operative assessment of blood flow in cardiovascular surgery.	Masaki Yamamoto, Shiro Sasaguri, Takayuki Sato	外科 (二)
日本臨床外科学会雑誌	胆嚢炎と十二指腸狭窄 を合併したsegmental arterial mediolysis の1例	木原一樹、小池直人、 大島祐二、武内俊章、 有田誠司、渡橋和政	外科 (二)
Surgery Today	Assessing intraoperative blood flow in cardiovascular surgery.	Yamamoto M, Sasaguri S, Sato T.	外科 (二)
Eur J Vasc Endovasc Surg	Indocyanine green angiography for intra-operative assessment in vascular surgery.	Yamamoto M, Orihashi K, Nishimori H, Wariishi S, Fukutomi T, Kondo N, Kihara K, Sato T, Sasaguri S.	外科 (二)
Ann Thorac Cardiovasc Surg	A surgical case report of off-pump onlay patch grafting for pseudoaneurysm with diffusely calcified coronary artery.	Sasaguri S, Nishimori H, Wariishi S, Yamamoto M, Kondo N, Kihara K, Fukutomi T	外科 (二)
Crit Care Med 2011 Vol. 39, No. 3, 2011	The evaluation of the ability of closed-loop glycemic control device to maintain the blood glucose concentration in intensive care unit patients.	T. Yatabe, R. Yamazaki, H. Kitagawa, T. Okabayashi, K. Yamashita, K. Hanazaki, M. Yokoyama	麻酔科学・ 集中治療医学講座
Neuroreport. 2011 Dec 21;22(18):984-8.	The involvement of the neurosteroid allopregnanolone in the antihyperalgesic effect of paroxetine in a rat model of neuropathic pain.	Kawano T, Soga T, Chi H, Eguchi S, Yamazaki F, Yokoyama M.	麻酔科学・ 集中治療医学講座

J Anesth. 2011 Dec;25(6):953-4.	Can sugammadex encapsulation eliminate the antigenic activity of aminosteroidal neuromuscular blocking agent?	Kawano T, Yokoyama M.	麻酔科学・集中治療医学講座
J Anesth. 2011 Dec;25(6):942-5.	Role of the neurosteroid allopregnanolone in the hyperalgesic behavior induced by painful nerve injury in rats.	Kawano T, Soga T, Chi H, Eguchi S, Yamazaki F, Kumagai N, Yokoyama M.	麻酔科学・集中治療医学講座
Masui. 2011 Jul;60(7):824-9. Review. Japanese.	[Preoperative fluid management contributes to the prevention of intraoperative hypothermia].	Yatabe T, Yokoyama M.	麻酔科学・集中治療医学講座
J Anesth. 2011 Aug;25(4):558-62.	Preoperative carbohydrate-rich beverage reduces hypothermia during general anesthesia in rats.	Yatabe T, Kawano T, Yamashita K, Yokoyama M.	麻酔科学・集中治療医学講座
J Artif Organs. 2011 Sep;14(3):232-7.	Continuous monitoring of glucose levels in the hepatic vein and systemic circulation during the Pringle maneuver in beagles.	Yatabe T, Kitagawa H, Kawano T, Munekage M, Okabayashi T, Yamashita K, Hanazaki K, Yokoyama M.	麻酔科学・集中治療医学講座
臨床婦人科産科 医学書院	母体と胎児の栄養学 【妊娠中の栄養管理 2】インスリン抵抗性 の変化	松島幸生、池上信夫、 深谷孝夫	産科婦人科
産婦人科治療	【不妊診療のすべて】 子宮内膜症 子宮内膜 症と腹腔内免疫応答	前田長正、深谷孝夫	産科婦人科
産婦人科の実際	特集 産婦人科領域で の妊孕能向上を目指し た 形成術腹式子宮筋 腫核出術	山本寄人、前田長正、 深谷孝夫	産科婦人科
日本産科婦人科学会	子宮内膜症の謎を探る -免疫学的アプローチ から-	前田長正	産科婦人科
日本エンドメトリオーシス学会会 誌	子宮内膜症の成因に関 する基礎的研究 逆流 経血への腹腔内免疫応 答 月経周期による変 化と子宮内膜症発症と の関連について	前田長正	産科婦人科
産婦人科治療	特集・不妊診療のすべ て 子宮内膜症と腹腔内免 疫応答	前田長正、深谷孝夫	産科婦人科

10th International Symposium on Therapeutic Ultrasound (ISTU2010) AIP Conference Proceedings 1359: 488-492, 2011	Efficacy of Magnetic Resonance-guided Focused Ultrasound Surgery for Bone Metastases Pain Palliation.	Kawasaki M, Nanba H, Kato T, Tani T, Ushida T	整形外科
Pain Med. 12(4): 546-551, 2011	Percutaneous radiofrequency treatment for refractory anteromedial pain of osteoarthritic knees.	Ikeuchi M, Ushida T, Izumi M, Tani T	整形外科
Clin Neurophysiol. 122(7): 1405-1410, 2011	Effect of volitional relaxation and motor imagery on F wave and MEP: Do these tasks affect excitability of the spinal or cortical motor neurons?	Fujisawa R, Kimura J, Taniguchi S, Ichikawa H, Hara M, Shimizu H, Iida H, Yamada T, Tani T	整形外科
J Orthop Surg. 19(2): 141-144, 2011	Factors predicting progression in early degenerative lumbar scoliosis.	Kohno S, Ikeuchi M, Taniguchi S, Takemasa R, Yamamoto H, Tani T	整形外科
Knee 18(6): 453-455, 2011	Successful treatment of wound breakdown caused by pyoderma gangrenosum after total knee arthroplasty.	Nakajima N, Ikeuchi M, Izumi M, Kuriyama M, Nakajima H, Tani T	整形外科
J Orthop Sci DOI 10.1007/s00776-011-0105-8 (2011 Jun 4. [Epub ahead of print])	Dangerous cervical radiculopathy by Lemierre's syndrome.	Ikemoto T, Kawasaki M, Kato T, Takemasa R, Ushida T, Tani T, Taniuchi K	整形外科
Knee. 2011 Nov 11. [Epub ahead of print]	Transcutaneous oxygen tension in the anterior skin of the knee after minimal incision total knee arthroplasty.	Aso K, Ikeuchi M, Izumi M, Kato T, Tani T	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg.; 132(6):891-5. Epub 2012 Feb 19.	Nociceptive sensory innervation of the posterior cruciate ligament in osteoarthritic knees.	Ikeuchi M, Q. Wang, Izumi M, Tani T	整形外科
Invest Ophthalmol Vis Sci, 52(1): 611-617, 2011.	Dynamic changes of microRNAs in the eye during the development of experimental autoimmune uveoretinitis.	Ishida W, Fukuda K, Higuchi T, Kajisako M, Sakamoto S, Fukushima A.	眼科

Immunol Lett, 136: 49-54, 2011.	Adjuvants determine the contribution of basophils to antigen sensitization in vivo.	Ishida W, Fukuda K, Sumi T, Ebihara N, Kajisako M, Matsuda H, Yagita H, Fukushima A	眼科
Jpn J Ophthalmol, 55(1): 175-182, 2011	Influence of three-dimensional image viewing on visual function.	Maeda F, Tabuchi A, Kani K, Kawamoto K, Yoneda T, Yamashita T.	眼科
Allergol Int, 60(2): 191-203, 2011.	Japanese Guideline for Allergic Conjunctival Diseases.	Takamura E, Uchio E, Ebihara N, Ohno S, Ohashi Y, Okamoto S, Kumagai N, Satake Y, Shoji J, Nakagawa Y, Namba K, Fukagawa K, Fukushima A, Fuiishima H.	眼科
Allergol Int, 60(3): 355-363, 2011.	Synergistic induction of eotaxin and VCAM-1 expression in human corneal fibroblasts by staphylococcal peptidoglycan and either IL-4 or IL-	Fukuda K, Nishida T, Fukushima A	眼科
Invest Ophthalmol Vis sci, 52(11): 8224-8230, 2011	Regulation of experimental autoimmune uveoretinitis by anti-Delta-like ligand 4 monoclonal antibody	Ishida W, Fukuda K, Sakamoto S, Koyama N, Koyanagi A, Yagita H, Fukushima A.	眼科
Cornea, 30: 1491-1494, 2011.	Long-term follow-up after lamellar keratoplasty in a patient with bilateral idiopathic corneal keloid	Fukuda K, Chikama T, Takahashi M, Nishida T.	眼科
日眼会誌 115 (6): 508-515, 2011.	春季カタルに対するシクロスポリン点眼液 0.1%の全例調査	高村悦子, 内尾英一, 海老原伸行, 岡本茂樹, 熊谷直樹, 庄司純, 中川やよい, 南場研一, 福島敦樹, 藤島浩, 宮崎大, 大橋裕一	眼科
あたらしい眼科 28(12): 1773-1775, 2011.	von Hippel-Lindau (VHL)病における網膜血管腫発症の全国疫学調査結果	松下恵理子, 福島敦樹, 石田晋, 白木邦彦, 米谷新, 執印太郎	眼科
臨眼 65(10): 1651-1655, 2011.	ステロイド治療を行ったAZOORの1例	西内貴史, 中茎敏明, 松下恵理子, 西野耕司, 岸茂, 福島敦樹, 近藤峰生	眼科
日眼会誌 115 (6): 493-494, 2011.	重症アレルギー性結膜疾患の治療-免疫抑制点眼薬の登場-	福島敦樹	眼科

Allergol Int, 61: 275-282, 2012.	Blood level of tacrolimus in patients with severe allergic conjunctivitis treated by 0.1% tacrolimus ophthalmic suspension.	Ebihara N, Ohhashi Y, Fujishima H, Fukushima A, Nakagawa Y, Namba K, Okamoto S, Shoji J, Takamura E, Uchio E, Miyazaki D.	眼科
Jpn J Ophthalmol, 56(1): 1-7, 2012.	Automated hyperemia analysis software: reliability and reproducibility in healthy subjects	Yoneda T, Sumi T, Takahashi A, Hoshikawa Y, Kobayashi M, Fukushima A.	眼科
Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol, 250: 289-295, 2012	B and T lymphocyte attenuator regulates the development of antigen induced experimental conjunctivitis.	Ishida W, Fukuda K, Kajisako M, Sumi T, Matsuda H, Yagita H, Fukushima A.	眼科
医学と薬学 67(1): 21-27, 2012.	特集 眼科疾患の病態と診断・治療 (I) アレルギー性結膜疾患	福島敦樹	眼科
あたらしい眼科 29(1) : 103-108, 2012.	抗アレルギー薬による肥満マスト細胞からのメディエーター遊離抑制効果の比較	角環, 山田美絵, 高橋佑次, 今井俊佑, 葛西洋芳, 石田わか, 福島敦樹	眼科
アレルギーの臨床 32(3): 215-225, 2012.	アレルギー性眼疾患の最新知見	福島敦樹	眼科
アレルギー・免疫 19: 288-293, 2012.	アレルギー性結膜炎患者における眼球結膜充血画像解析の臨床的評価	米田剛, 角環, 内野美樹, 深川和己, 小林正彦, 星川靖弘, 福島敦樹	眼科
耳鼻臨床104(5) ; 316-317, 2011.	先天性真珠腫の内視鏡下摘出術 (カラー図)	小林泰輔	耳鼻咽喉科
耳鼻臨床104(5) ; 335-339, 2011.	多発性脳膿瘍を合併した蝶形骨洞アスペルギルス症例.	澤井尚樹, 渡辺太志, 小森正博	耳鼻咽喉科
ONCLOGY REPORTS 25; 795-802, 2011.	Gene therapy for oral squamous cell carcinoma with IAI. 3B promoter-driven oncolytic adenovirus-infected carrier cells.	Ting Zhang, Katsuyuki Hamada, Masamitsu Hyodo, Hiroshi Itoh, Kenzaburo Tani, Hiroyuki Goda, Koh-ichi Nakashiro and Hiroyuki Hamakawa	耳鼻咽喉科
耳鼻臨床104(9) ; 609-615, 2011.	嚥下障害に対する薬物治療の現状と将来展望.	兵頭政光	耳鼻咽喉科
Facial N Res Jpn 31; 59-60, 2011.	顔面神経管のコーンビームCT画像 ~胎生期の検討~.	小森正博, 森山浩志, 島田和幸, 平海晴一, 兵頭政光, 柳原尚明	耳鼻咽喉科
耳鼻臨床105(1) ; 41-46, 2012.	耳下腺に発生した乳幼児線維腫症例.	青井二郎, 小森正博, 西窪加緒里, 兵頭政光	耳鼻咽喉科
Laryngoscope 122; 622-623, March 2012.	Modified Microslicing Technique for Auricular Cartilage to Reduce Curling.	Msahiro Komori, Taisuke Kobayashi, Masamitsu Hyodo, Naoaki Yanagihara	耳鼻咽喉科

Int. Adv. Otol. 8:(1); 148-153, 2012.	Acute Bilateral Sensorineural Hearing Loss Following Mycoplasmal Pneumonia.	Taisuke Kobayashi, Kiyofumi Gyo, Masahiro Okada, Yuichi Tomidokoro	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx 38(1); 95-100, 2011.	Incidence of long-term ipsilateral and contralateral ototoxicity following radiotherapy for nasopharyngeal carcinoma	Wakisaka H, Yamada H, Motoyoshi K, Ugumori T, Takahashi H, Hyodo M	耳鼻咽喉科
専門医通信 第107号; 12-13, 2011.	嚥下障害に対する薬物療法.	兵頭政光	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学会「専門医通信」第42号; 16-21, 2011.	【講座】高齢化社会を踏まえた嚥下障害対策—外科的治療—.	兵頭政光	耳鼻咽喉科
JOHNS 27(9); 1452-1453, 2011.	喉頭肉芽腫症(特集・私の処方箋 喉頭頸部領域).	兵頭政光	耳鼻咽喉科
MB ENT 131; 146-151, 2011.	嚥下性肺炎(特集・耳鼻咽喉科領域のウイルス・細菌・真菌感染症治療戦略).	兵頭政光, 西窪加緒里	耳鼻咽喉科
日本医事新報 4527; 59-64, 2011	嚥下障害の診断と対応—機序、検査法、治療法—	兵頭政光	耳鼻咽喉科
MB ENT 124; 38-42, 2011	高齢者誤嚥に対する外科的治療後の管理	兵頭政光, 西窪加緒里	耳鼻咽喉科
JOHNS 27(3); 357-360, 2011	入院診療における看護—嚥下障害—	兵頭政光	耳鼻咽喉科
嚥下医学 1(1); 13-14, 2012	嚥下手術 私の術式—輪状咽頭筋切断術—	兵頭政光	耳鼻咽喉科
Cancer Sci 102(2):393-399, 2011	HA1077, a Rho kinase inhibitor, suppresses glioma-induced angiogenesis by targeting the Rho-ROCK and the mitogen-activated protein kinase kinase/extracellular signal-regulated kinase (MEK/ERK) signal pathways.	Nakabayashi H, Shimizu K	脳神経外科
J Neurooncol 104(2):497-507, 2011	Identification and functional characterization of glioma-specific promoters and their application in suicide gene therapy.	Yawata T, Maeda Y, Okiku M, Ishida E, Ikenaka K, Shimizu K	脳神経外科

Int J Urol 18 (8): 585-91, 2011	Preliminary experience of photodynamic diagnosis of positive margin during radical prostatectomy by oral 5-aminolevulinic acid.	Fukuhara H, Inoue K, Kuno T, Kamei M, Shimamoto T, Fukata S, Satake H, Tamura K, Karashima T, Ashida S, Kamada M, Yamasaki I, Iiyama T, Kurabayashi A, Furihata M, Shuin T.	泌尿器科
Japanese Journal of Endourology and ESWL 24: 8-13, 2011	特集1: 光力学診断の新展開 ~光の先に何がみえるのか~「光力学技術の泌尿器科領域での展開」	井上啓史, 福原秀雄, 執印太郎	泌尿器科
Aminolevulinic acid - Science, Technology and Application -, Tokyo, 141-146, 2011	Part IV Application of Aminolevulinic Acid for Tumor Diagnosis and Therapy. 12. Photodynamic Diagnosis of Bladder Cancer for Surgical Treatment.	Inoue K, In: Okura I, Tanaka T	泌尿器科
西日本泌尿器科 73(9)460-469, 2011.	膀胱癌に対する光力学診断における課題 -偽陽性所見の病理学的検討-	福原秀雄, 井上啓史, 深田 聡, 辛島 尚, 鎌田雅行, 執印太郎, 久野貴平, 笹原高太郎, 渡邊裕修, 濱口卓也, 片岡真一, 谷村正信, 倉林 睦, 降幡睦夫, 飯山達雄	泌尿器科
口腔組織培養学会誌 20:43-44, 2011.	口腔扁平上皮癌におけるマイクロRNAの発現と増殖・浸潤における役割についての検討	吉村友秀, 笹部衣里, 北村直也, 山本哲也	歯科口腔外科
日本口腔外科学会雑誌 57:128-132, 2011.	コルチコステロイドの局所注射が奏効した下顎骨ランゲルハンス細胞組織球症の1例	中谷倫子, 成川玄, 中村裕一郎, 北村直也, 山田朋弘, 山本哲也	歯科口腔外科
Oral Oncology 47:77-78, 2011.	Wilm's tumor gene WT1 peptide immunotherapy for pulmonary metastasis from adenoid cystic carcinoma of the salivary gland. Oral	Eri Sasabe, Fumito Hamada, Tatsuo Iiyama, Keiko Udaka, Haruo Sugiyama, Tetsuya Yamamoto	歯科口腔外科
J Oral Maxillofac Surg , 2011.	Nationwide Survey for Bisphosphonate-Related Osteonecrosis of the Jaws in Japan.	Masahiro Urabe, Noriaki Tanaka, Kiyofumi Furusawa, Jun Shimada, Takanori Shibata, Tadaaki Kirita, Tetsuya Yamamoto, Tetsuro Ikebe, Yoshimasa Kitagawa, Jinichi Fukuta	歯科口腔外科

Oncology Letters 2:839-843, 2011.	Superoxide dismutase activity of Helicobacter pylori per se from 158 clinical isolates and the characteristics. Microbiol Immunol .	Keiko Morishita, Hiroaki Takeuchi, Norihito Morimoto, Tomoko Shimamura, Yoshu Kadota, Masayuki Tsuda, Taketoshi Taniguchi, Hiroyuki Ukeda, Tetsuya Yamamoto, Tetsuro Sugiura	歯科口腔外科
Heart Vessels. 26:267-73.	Effects of various doses of aspirin on platelet activity and endothelial function.	Furuno T, Yamasaki F, Yokoyama T, Sato K, Sato T, Doi Y, Sugiura T.	検査部
Clin Nucl Med. 2011 Feb;36(2):121-3.	F-18 FDG PET/CT Provides the Earliest Findings of Enthesitis in Reactive Arthritis.	Taniguchi Y, Kumon Y, Nakayama S, Arii K, Ohnishi T, Ogawa Y, Kobayashi S, Terada Y.	検査部
Histol Histopathol. 26(1):1-11.	Neutrophil infiltration and oxidant-production in human atherosclerotic carotid plaques.	Hosokawa T, Kumon Y, Kobayashi T, Enzan H, Nishioka Y, Yuri K, Wakiguchi H, Sugiura T.	検査部
Nephrol Dial Transplant. Apr;26(4):1252-7	Decreased plasma level of vitamin C in chronic kidney disease: comparison between diabetic and non-diabetic patients.	Takahashi N, Morimoto S, Okigaki M, Seo M, Someya K, Morita T, Matsubara H, Sugiura T, Iwasaka T.	検査部
Circ J. 75:919-26.	Combined measurements of cardiac troponin I and brain natriuretic peptide are useful for predicting adverse outcomes in hypertrophic cardiomyopathy.	Kubo T, Kitaoka H, Okawa M, Yamanaka S, Hirota T, Baba Y, Hayato K, Yamasaki N, Matsumura Y, Yasuda N, Sugiura T, Doi YL.	検査部
Histol Histopathol. 2011 Jan;26(1):1-11.	Neutrophil infiltration and oxidant-production in human atherosclerotic carotid plaques.	Hosokawa T, Kumon Y, Kobayashi T, Enzan H, Nishioka Y, Yuri K, Wakiguchi H, Sugiura T.	検査部
J Agric Food Chem. 2011 Aug 24;59(16):8953-60. Epub 2011 Jul 20.	In Vitro Antimicrobial Activity of Aminoreductone against the Pathogenic Bacteria Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus (MRSA).	Trang VT, Takeuchi H, Kudo H, Katsuno S, Shimamura T, Kashiwagi T, Hong Son V, Sugiura T, Ukeda H.	検査部

Amyloid. 2011 Jun;18 Suppl 1:6-8.	Acute-phase serum amyloid A is present in human colostrum and milk.	Kumon Y, Yasuoka Y, Yamanaka S, Wada A, Takeuchi H, Sugiura T	検査部
Food Science and Technology Research Vol. 17 (2011), No. 6 pp.505-513	In vivo anti-Helicobacter pylori activity of Chinese chive (<i>Allium tuberosum</i>)	Kudo H., Takeuchi H, Shimamura T, Sugiura, T, Ukeda H	検査部
World J Gastroenterol. 2012 Feb 7;18(5):425-34.	Effect of Helicobacter pylori <i>cdxA</i> on interleukin-8 secretions and nuclear factor kappa B activation.	Takeuchi H, Zhang YN, Israel DA, Peek RM Jr, Kamioka M, Yanai H, Morimoto N, Sugiura T.	検査部
J Cardiovasc Pharmacol. 2012 Feb 22. [Epub ahead of print]	Effect of Pioglitazone on Arterial Baroreflex Sensitivity and Sympathetic Nerve Activity in Patients with Acute Myocardial Infarction and Type2 Diabetes Mellitus.	Yokoe H, Yuasa F, Yuyama R, Murakawa K, Miyasaka Y, Yoshida S, Tsujimoto S, Sugiura T, Iwasaka T.	検査部
J. Medical Microbiology & Diagnosis 2012 Mar. S1-7 Doi:10.4172/2161-0703.S1-002	Antibacterial activities of refined deep seawater on Helicobacter pylori	Kawada M, Takeuchi H, Con SA, Yamamoto E, Yasukawa T, Nakagawa K, Ikegami Y, Sugiura T	検査部
Am Surg	Colorectal cancer surgery in patients older than 80 years of age: experience at one nonteaching hospital in Japan	Maeda H, Okabayashi T, Ichikawa K, Miyazaki J, Hanazaki K, Kobayashi M.	がん治療センター
World Journal of Gastroenterology	Clinical experience of Pseudo-Meigs' Syndrome due to colon cancer	Hiromichi Maeda, Takehrio Okabayashi, Kazuhiro Hanazaki, Michiya Kobayashi	がん治療センター
Jpn J Clin Oncol	Prospective phase II study of FOLFIRI for mCRC in Japan, including the analysis of UGT1A1 28/6 polymorphisms.	Okuyama Y, Hazama S, Nozawa H, Kobayashi M, Takahashi K, Fujikawa K, Kato T, Nagata N, Kimura H, Oba K, Sakamoto J, Mishima H.	がん治療センター
論文件数合計			231件

(注)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 杉浦 哲朗		
管理担当者氏名	総務企画課長	若狭 忠司	医療安全管理部長 横山 正尚
	医事課長	都築 泰仁	
	薬剤部長	宮村 充彦	
	放射線部長	小川 恭弘	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医事課（カルテ室）及び薬剤部並びに放射線部	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一ファイル方式とし、エックス線写真は一患者一ファイル方式で共にコンピュータによる集中管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務企画課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務企画課	
	高度の医療の研修の実績	総務企画課	
	閲覧実績	総務企画課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	会計課及び薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一項の各号及び第九条の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医学部・病院事務部長 佐藤 宏通
閲覧担当者氏名	総務企画課長 若狭 忠司
閲覧の求めに応じる場所	医事課 医事相談室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	72.63 %	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	9,990人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,382人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,019人	
	D: 初診の患者の数	18,315人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
指針の主な内容 (本院の安全管理のための指針) <ul style="list-style-type: none">・安全管理に関する基本的考え方 (安全管理の体制確保という総合的観点から)・医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項・医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針・医療に係る安全の確保を目的とした、事故報告等の改善のための方策に関する基本方針・医療事故等発生時の対応に関する基本方針・患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針・患者さんからの相談への対応に関する基本方針・医薬品と医療機器安全管理に関する基本方針・その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
活動の主な内容 (リスクマネジメント代表者会議規則) <ol style="list-style-type: none">(1) 高知大学医学部附属病院医療安全管理部規則 (平成 16 年 5 月 26 日施行) 第 3 条に定める事項。(2) 報告のあったインシデントの分析及び影響度レベルの判定に関すること。(3) 判定した影響度レベルが 3 b 以上のものについて、医療問題調査委員会への報告に関すること。(4) インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関すること。(5) 医療安全管理体制システム及びマニュアルの見直しに関すること。(6) 研修会等の企画・立案に関すること。(7) 協議事項の結果をリスクマネジメント担当者会議に周知徹底すること。(8) その他安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年15回
研修の主な内容：安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について実施 ・研修の主な内容：全職員を対象に下記のテーマで合計15回開催した <ul style="list-style-type: none">・「診療関連死の警察届け出の判断」・医療安全のための KYT(危険予知) 研修・「クリニカルKYT」・「安全・安心な医療」：4 回・「医療事故の経験から伝えたいこと」・周術期管理チーム講演会・「医療事故防止のために」：5 回・「医療政策と医療安全の行方」	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) その他改善のための方策の主な内容 <ul style="list-style-type: none">・報告事例の分析を行い、事例に対応する事故防止のための研修会の開催、マニュアルの改定・医療機器の不具合情報を厚生労働省に報告するとともに院内にもリスクマネジメントニュースにより周知・報道された医療事故等の要約を全部署に配布し、事故防止について注意喚起している。・病棟巡視を行って、その結果を病棟に示し、注意・改善を促している。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・無
<p>所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (10) 名</p> <p>活動の主な内容 (医療安全管理部規則)</p> <p>(1) 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 (2) 重要な検討内容について、患者への対応状況を含め病院長へ報告すること。 (3) 重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図ること。 (4) 医療事故の防止及び対策に係る調査・分析に関すること。 (5) 改善策を立案すること。 (6) 改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと。 (7) 安全管理に関する教育・研修に関すること。 (8) 安全管理に関する連絡調整に関すること。 (9) その他安全管理に関すること。</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的考え方2. 院内感染対策のための委員会その他組織に関する基本的事項3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染の発生及びその感染経路の調査に関すること2. 感染予防に係る情報の収集に関すること3. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること4. 感染症発生時の措置に関すること5. 院内職員の教育及び啓発に関すること6. 消毒剤等の使用に関すること7. 感染症専用処置室の運用に関すること8. その他感染予防に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年16回
<p>・ 研修の主な内容： 全職員を対象に下記のテーマで合計16回開催した</p> <ul style="list-style-type: none">・ 感染症診療の基本・ 血液培養の重要性・ 入院患者さんが発熱したらすべきこと・ 入院患者さんが下痢したらどうする？・ 血管内留置カテーテル管理・ カテーテル関連血流感染・ 感染性心内膜炎を見逃さないために・ 尿道留置カテーテル管理・ 廃棄物、環境管理・ 結核・ ノロウイルスとインフルエンザ・ 消毒薬の使い方・ 抗菌薬の適正使用・ 肺炎・ 黄色ブドウ球菌・ 細菌培養結果の解釈について <p>その他、研修医、新採用看護師、清掃業者に対しても実施した</p>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 感染情報レポートは、週報（毎週1回）、月報（毎月1回）、年報（毎年1回）作成し、感染症法に基づく病原体（MRSA、ペニシリン耐性肺炎球菌、感染性胃腸炎の病原菌、薬剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクターなど）、β-ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性ヘモフィルス、3世代セフェム耐性基質拡散型β-ラクタマーゼ産生菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、流行時期に応じてインフルエンザ、ノロウイルスなどの検出状況を示している。
 2. MRSAについては、サーベイランスを行い、感染と保菌、院内発生と持込を診療科別、病棟別に示している。
 3. これらの情報は、ベースラインを把握し、菌検出状況に応じて現場に出向き感染対策を徹底することによって、アウトブレイクの予防と早期察知に役立て、さらに感染対策実施状況の評価に活用している。
 4. 診療科、病棟、外来、検査部から専任感染対策マネージャーに報告。
 5. 専任感染対策マネージャーは直ちに部署に出向き、患者発生状況を調査する。
 6. 感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する。
 7. 接触者（患者、面会者、医療従事者）を確認し、必要な予防策を講じる。
 8. 医師、看護師、ICT合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る。
 9. 随時専任感染対策マネージャーから感染対策委員会委員長に報告する。
 10. 各診療科、病棟から所属長に報告する。
 11. ICTに報告が必要な病原体として、血液培養陽性、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、バンコマイシン耐性腸球菌、基質拡散型β-ラクタマーゼ産生菌、ペニシリン耐性肺炎球菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、下痢および嘔吐、食中毒、結核および結核の疑い、インフルエンザ、麻疹、水痘・帯状疱疹、風疹、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、百日咳、疥癬をあげている。
 12. 診療科、病棟、外来、検査部から専任感染対策マネージャーに報告があれば、
 - ①専任感染対策マネージャーは直ちに部署に出向き、患者発生状況を調査する
 - ②感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する
 - ③接触者（患者、面会者、医療従事者）を確認し、必要な予防策を講じる
 - ④医師、看護師、ICT合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る
 - ⑤随時専任感染対策マネージャーから病院長（感染対策委員長）に報告する
 - ⑥各診療科、病棟から所属長に報告する必要に応じて保菌者スクリーニング、環境培養、詳細な疫学調査を実施する
 13. 週1回、感染対策ラウンド
 14. 週1回、感染症カンファレンス
 15. 全部署の速乾性手指消毒薬使用量のモニタリング

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：(H23 年度)1. 麻薬・向精神薬の使い方(対象：研修医)2. 静脈注射に関する注意点について(対象：2年目以降の看護師)3. 抗菌薬の適正使用・消毒薬の適正使用(感染対策研修会)4. 安全・安心の医療(医療安全研修会、対象：全職員)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有・無)・ 業務の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医薬品の採用・購入に関する事項2. 医薬品の管理に関する事項3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤までに関する事項4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項5. 医薬品の安全使用に係わる情報の取扱いに関する事項6. 他施設(医療機関・薬局等)との連携に関する事項7. 医薬品安全性情報等の管理体制の充実にに関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">①IMIS 掲示板及び全学グループウェアの掲示板 ②院内通知文書③医薬品・医療機器等安全性情報の発行 ④薬剤管理指導業務連絡会⑤DI ニュースの発行 ⑥各種勉強会、講習会等	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>全職員・新人看護師・研修医等に対する、安全使用に関して技術の習得が必要と考えられる機器等の、適正な使用方法とインシデント対策等に関する定期研修、及び新しい医療機器の導入時の操作方法等に関する研修を実施。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>特に安全使用に関して技術の習得が必要と考えられる機器を含む、人工呼吸器、人工心肺装置、輸液ポンプなどの機器類の定期点検、日常点検等を実施し、コンピュータ化されて機器名、型式等が入力されている機器台帳により個々に記録管理し、かつ保守点検計画を策定。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>使用部署に取扱い説明書等を整備。医療機器製造販売業者等から収集した安全情報は、病院の電子掲示板により周知を図るが、緊急を要する場合は、直接関係部署に出向き、説明し情報を伝え対応をとる。また、院内医療機器のインシデントの報告に対し、その安全対策・改善策を周知し実施する。さらに、医療機器の不具合は病院管理者への報告を通して、医療機器安全性情報報告書を原則として厚労省に提出する。</p>	